

交通死亡事故に繋がる危険因子の特定 と予防策に対する研究

青山学院大学理工学部
情報テクノロジー学科Dürst研究室

学籍番号：15822100

原田 裕大

目次

第 1 章	はじめに	1
第 2 章	基礎・関連	2
2.1	定義	2
2.1.1	誤字小説	2
2.1.2	Web 関連情報	3
2.2	参照	3
第 3 章	実装	4
3.1	ズズズズズ	4
3.1.1	野生の豹と飼育された豹	4
3.1.2	完全実装	6
3.2	ソースコードの裏の裏の裏	6
3.3	文献データベースと BibTeX	7
第 4 章	評価	8
4.1	箇条書きの回避	8
4.1.1	実検実権実験	8
4.1.2	実験	9
4.2	庭での実験	9
第 5 章	まとめ	10
	謝辞	11
	参考文献	12
	付録	13
付録 A		
	第 123 回情報処理学会全国大会発表論文	A-1
	chapter 付録 B	
	質疑応答 B-1	

第1章 はじめに

日本国内における交通事故件数は依然として高い水準にあり、喫緊の社会課題となっている。2024年の統計によれば、交通事故発生件数は約29万件、負傷者数は34万人を超え、死者数は2,663名に達している [1]。この死傷者数は、2024年の日本の総人口（約1億2390万人） [2] を基に換算すると、およそ357人に1人が1年間のうちに交通事故で死亡または負傷している計算となり、極めて高い確率であると言える。また、交通事故による社会的影響は人的被害にとどまらない。内閣府の調査（2022年度推計）によれば、日本における交通事故起因の経済損失は年間約10兆5,540億円に上るとされており [3]、これは国民1人あたり年間約8.5万円の負担に相当する。したがって、交通事故の削減は人命を守るだけでなく、社会的な経済負担を軽減する上でも極めて重要である。

しかしながら、交通事故は単一の要因のみで引き起こされるものではなく、道路環境、気象条件、運転者の属性といった多様な要素が複雑に絡み合って発生する事象である [?]。そのため、真に有効な削減策を導出するためには、これらの多角的な要因を包括的に捉え、その発生メカニズムを解明することが不可欠となる。こうした分析を可能にするリソースとして、近年、警察庁により「交通事故統計オープンデータ」が公開されている [4]。このデータセットは2019年から2024年までの記録を含み、発生日時、天候、道路線形、車両の種類など、事故状況に関する詳細な変数を網羅している。これほど詳細かつ大規模なデータが存在するにもかかわらず、既存の研究は特定の地域や要因に焦点を当てたものが多く [?, ?]、包括的な学術的分析や実務的な予防策への適用事例は未だ限定的であるのが現状である。人間が処理可能な範囲を超えた……

そこで本研究では、警察庁のオープンデータを用いた交通事故予測モデルの構築を行う。機械学習等の予測モデルを用いることで、特定の条件下（例：週末の夜間や特定の道路形状など）におけるリスクを定量的に評価することが可能となる。本研究の目的は、これらの分析を通じて死亡事故につながる主要な危険因子を特定し、交通事故死者数を減少させるための効果的かつ具体的な予防策を導出することにある。

第2章 基礎・関連

アノテーションの定義と、アノテーションの内部データ構造を説明する [5].

2.1 定義

[illegible]

メタな記号\$.

数式

$$\sum_{k=0}^{100} (|x^k| + 1)$$

モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。
モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モ
ゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モ
ゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モ
ゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モ
ゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。

2.1.1 誤字小説

模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用い
る [9]。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を
用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を
用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を
用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を
用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を

用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。

模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。
模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる [10]。
模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。

2.1.2 Web 関連情報

模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。
模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる [9].

2.2 参照

[illegible]

?? 節で述べた○○は黒い。特に ??項 のはとても黒い。??項 のはやや黒い。

第3章 実装

アノテーションの定義と、アノテーションの内部データ構造を説明する [5].

3.1 ズズズズズ

モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる [6]. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる [7]. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる [8].

モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. 図 3.1 の長方形に角は四つである。本文中から必ず参照する。オプションについても調べた。モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる.

PowerPoint で図を作るときは、スライドサイズを先に指定すると余白が少なくなる。

モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる. モゲという概念を用いる.

3.1.1 野生の豹と飼育された豹

模気という構造を用いる. 模気という構造を用いる. 模気という構造を用いる [9]. 模気という構造を用いる. 模気という構造を用いる. 模気という構造を用いる. 模気という構造を用いる. 模気という構造を用いる. 模気という構造を用いる. 模気という構造を用いる. 表 3.1 は豹ではなく表である。本文中から必ず参照する。オプションについては解説しない。

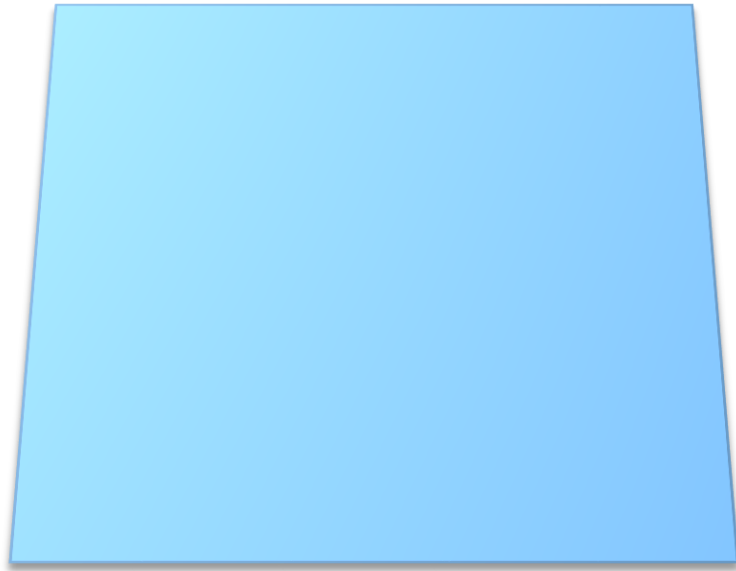


図 3.1: PowerPoint 上での矩形

表 3.1: 情報テクノロジー学科線路側研究室〇〇情報

研究室	場所	人数
佐久田研	O-YYY	5
原田研	O-XXX	7
Dürst 研	O-527	3
大原研	O-ZZZ	2

模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。
模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる [10].
模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。

3.1.2 完全実装

模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。
模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる [9].

3.2 ソースコードの裏の裏の裏

[illegible]

この着想のすべてはソースコード 3.1 で示すことができる。

```
1 def bmi (weight_kg, height)
2     if height > 20 # height in cm
3         weight_kg / (height/100.0)**2
4     else # height in m
5         weight_kg / height**2
6     end
7 end
```

ソースコード 3.1: bmi.rb (2011年度プログラミング基礎II 第八回)

3.3 文献データベースと BibTeX

文献データベース文献データベース文献データベース文献データベース文献データベース文献データベースサードベース文献データベース文献データベース文献データベース文献データベース文献データベースセカンドベースホームベース文献データベース文献データベース文献データベースホームベース文献データベースです。

第4章 評価

4.1 箇条書きの回避

モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。
モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モ
ゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モ
ゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。

- 1991 年の $\times \triangle \triangle \triangle \triangle$ の AAA は秀逸であると感じた。
- 2001 年の $\triangle \triangle \triangle \triangle \triangle$ の BBB がよかった。
- 1997 年の $\triangle \bigcirc \times$ の CCC がややよかった。

箇条書きは便利ですが、〇〇なので控える。論理的なごまかしや妥協につながる可能性があるかもしれないかもしれないと思うのかもしれない。表や地の文で書く。

モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。
モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モ
ゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。モゲという概念を用いる。

4.1.1 実検実権実験

模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。
模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。

模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。
模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模

気という構造を用いる。 模気という構造を用いる。 模気という構造を用いる。 模
 気という構造を用いる。 模気という構造を用いる。 模気という構造を用いる。 模
 気という構造を用いる。 模気という構造を用いる。 模気という構造を用いる。 模
 気という構造を用いる。 模気という構造を用いる。 模気という構造を用いる。 模
 気という構造を用いる。 模気という構造を用いる。 模気という構造を用いる。

4.1.2 実験

模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。
模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模
気という構造を用いる。模気という構造を用いる。模気という構造を用いる [9].

4.2 庭での実験

特別な庭で実験した。特別な庭で実験した。特別な庭で実験した。特別な庭で
実験した。特別な庭で実験した。特別な庭で実験した。特別な庭で実験した。特
別な庭で実験した。特別な庭で実験した。特別な庭で実験した。特別な庭で実験
した。特別な庭で実験した。特別な庭で実験した。特別な庭で実験した。特別な
庭で実験した。特別な庭で実験した。

結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。
 結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。
 結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。
 結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。結果は 100 である。
 結果は 100 である。

第5章 まとめ

[illegible][illegible]

謝辞

本論文を執筆するにあたり，多くの方々から多大なる御指導及び御助言を賜りました．このような研究の契機と環境を与えてくださり暖かくご指導して頂いた Martin J. Düst 教授に心から感謝致します．温かい研究室の仲間たちに感謝します．みんなのおかげでここまでたどりつくことができました．ありがとう．

2222 年 1 月

参考文献

- [1] 警察庁. 交通事故統計. https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00130002&tstat=000001027457&cycle=7&year=20240&month=0&stat_infid=000040249644&tclass1val=0, 2024. e-Stat 政府統計の総合窓口 (閲覧日: 2024 年 X 月 X 日).
- [2] 総務省統計局. 人口推計 (2024 年 10 月 1 日現在確定値) . <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2024np/index.html#a05k01-a>, 2024. 統計データ: 2024 年 10 月 1 日時点 (閲覧日: 2025 年 12 月 13 日).
- [3] 内閣府. 令和 4 年度交通事故の被害・損失の経済的分析に関する調査研究 (要旨) . <https://www8.cao.go.jp/koutu/chou-ken/r04/pdf/youshi.pdf>, 2023. 閲覧日: 2025 年 12 月 13 日.
- [4] 警察庁. 交通事故統計情報のオープンデータ, 2024. (2019 年から 2024 年のデータを収録) .
- [5] David Flanagan and Yukihiro Matsumoto. *The ruby programming language*. O'Reilly Media, Inc., 2008.
- [6] Naohisa Goto, Pjotr Prins, Mitsuteru Nakao, Raoul Bonnal, Jan Aerts, and Toshiaki Katayama. Bioruby: bioinformatics software for the ruby programming language. *Bioinformatics*, 26(20):2617–2619, 2010.
- [7] Yukio Matsumoto and K Ishituka. Ruby programming language, 2002.
- [8] Hal Fulton. *The ruby way: solutions and techniques in ruby programming*. Addison-Wesley Professional, 2006.
- [9] Leonard Richardson and Sam Ruby. *RESTful web services*. O'Reilly Media, Inc., 2008.
- [10] Koichi Sasada. Yav: yet another rubyvm: innovating the ruby interpreter. In *Companion to the 20th annual ACM SIGPLAN conference on Object-oriented programming, systems, languages, and applications*, pages 158–159. ACM, 2005.

付録

- A. 第123回情報処理学会全国大会発表論文
- B. 質疑応答

付録 A

第123回情報処理学会全国大会発表 論文

付録 B

質疑応答

発表後の質疑応答

X 先生の質問（要約）

ZZZ は他のものと比べてどのような違いは何か？

解答

Y 先生の質問（要約）

FFF はどのようなものでそのメリットは？

解答